



審 1007-M0103 号

2010年7月16日

社団法人 日本プロサッカーリーグ
事務局長 羽生英之 様
一般社団法人 日本フットボールリーグ
専務理事 加藤桂三 様
日本女子サッカーリーグ
総務主事 田口 禎則 様

財団法人 日本サッカー協会
審判委員会委員長 松崎 康弘

“アディショナルタイム (Additional Time)” の表示について【依頼】

拝啓

時下、益々ご健勝のこと、お慶び申し上げます。また、日頃より、日本の審判員、また、当委員会活動にご高配を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、サッカー競技規則第 7 条に基づき、主審は競技者の交代や負傷者の対応などで試合時間が空費された場合、前後半の最後に時間を追加することになっています。これは、これまで日本では、多くの場合“ロスタイム”と呼ばれ、競技場のスクリーン等に“表示時間は、目安です”との説明と共に表示されています。

しかしながら、本年のワールドカップにおいても、“Additional Time ○ ‘(アディショナルタイム ○分)’”という名称で、かつ、特に説明を付記することなく表示されていたこともあり、貴リーグの試合においてもこれに準じて、追加する時間の名称を“アディショナルタイム”とすると共に“目安”という付記もなく表示していただきたく、お願い申し上げます。

なお、空費された時間をどれだけ追加するかは主審の裁量であること、秒単位の時間は切り捨てられて表示されること（例：アディショナルタイム 2分は、残り時間 2分 00秒から 2分 59秒を意味する）、またアディショナルタイム中には空費された時間は、改めて表示されることなく追加されることについては、これまでと変わりありません。また、現在サッカー競技規則等で用いられている“ロスタイム”の表記は、順次“アディショナルタイム”と変更して参ります。

敬具

写し送付先： 地域サッカー協会理事長、審判委員長各位
都道府県サッカー協会専務理事、審判委員長各位
(財) 日本サッカー協会審判委員会委員